

軽防協ニュース速報 号外

2011年2月10日

軽種馬防疫協議会 事務局

(JRA馬事部防疫課)

インドにおける鼻疽の発生について

2010年12月29日および2011年1月4日付の Horsetalk-International horse news によれば、インド北部のウッタル・プラデーシュ州ビジナウル県で4頭のウマが致命的疾病である鼻疽に罹患したことが確認され、同県における動物の移動が規制された。また、4頭中2頭のウマが安楽死の処置が施され、残りの2頭は現在検疫下に置かれている。2010年12月28日および2011年1月3日付の Indianexpress.com に掲載された発生概要は以下の通りである。約20日前にウマ所有者が治療を依頼するために獣医病院にウマを連れてきた。これらのウマは発熱が継続し、鼻孔には潰瘍が出来ており、治療効果が認められなかった。そこで、12月15日に国立馬研究センター（NRCE）チームが現地入りし、4頭の罹患馬を含む37頭のウマ科動物から材料を採取した。12月22日に4頭のウマが鼻疽と確定診断され、検疫下に置かれた。県当局は州政府の指示に従ってこれらの罹患馬の買い上げを進め、2011年1月1日および1月3日にそれぞれ1頭の罹患馬が安楽死の処置を施された。県獣医官の話によれば、ウッタル・プラデーシュ州政府は罹患動物に対する適切かつ迅速な措置を求めており、残りの2頭のウマについても早急に安楽死の処置が施される予定である。

鼻疽は *Burkholderia mallei* によって起こされる細菌性疾病である。元来はウマ、ラバ、ロバなどのウマ科動物の病気であるが、イヌ、ネコ、ヤギなどの他の動物も罹患する。ヒトも本病に罹り、特に血液中に感染が拡大すると致死的事であることが証明されている。動物に共通した本病の症状は黄緑色の鼻汁漏出、鼻腔の潰瘍であり、ウマでは皮膚のリンパ節やリンパ小節が腫脹する。また、激しい咳を生じ、ウマでは数年間も継続する長期感染を起こす。急性型では、発咳、発熱、感染鼻汁の漏出を示し、その後敗血症を起こし、数日以内に死亡する。鼻疽はアフリカ、アジア、中東、中央および南アメリカでは地方病となっている。本病はヒトでは致死率が高く、少ない菌数で感染が成立することから、潜在的なバイオテロ因子と考えられている。

(出典：Horsetalk-International horse news, 2010. 12. 29 & 2011. 1. 4, 鎌田正信, 2011. 1. 5)